

出題分析			
試験時間	90 分	配点	150 点
		大問数	2 題
分量（昨年比較）〔減少		同程度	増加〕
		難易度変化（昨年比較）〔易化	同程度 難化〕
【概評】			
東京工業大学（前期）の理工学系の英語は、長文読解問題 2 題の出題が定着している。配点は 150 点満点であるが、大問Ⅰが 80 点、大問Ⅱが 70 点と大問Ⅰの比重が昨年同様に若干大きかった。下線部和訳・下線部英訳・内容説明・内容一致・脱文挿入を中心とした問題構成は従来通りであり、出題形式に大きな変更は見られない。ここ数年の総語数は 3000 語以上と、とにかく読解量が多い。判断に迷う問いは少ないものの、全体としての負担は試験時間に対して多い。今年出題された英文は比較的読み易かったので、難易度としては易化したと言えるだろう。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解問題 （科学研究において生じるバイアス）	問題形式は英訳・和訳・内容説明・脱文挿入・内容一致文選択と、ほぼ昨年と同様であった。本文の分量は若干増加したものの、設問数は昨年と同様であった。全体的に標準的な文法・語彙の知識があれば解ける問題である。また、内容説明問題の該当箇所の特定を含め判断に迷うものは特に見られなかった。	標準
II	長文読解問題 （都市における移動手段の改革）	問題形式は昨年と同様に和訳・英訳・内容説明・内容一致文選択・脱文挿入が出題された。和訳問題・英訳問題は、標準レベルの語彙・文法・構文の知識があれば対処できる問題で、確実に得点したい問題であった。内容一致問題は判断に迷う選択肢は見られず、比較的容易に対処できる問題であったと思われる。	やや易

合格のための学習法

東京科学大の理工学系の英文は例年分量が多く、速読の力が必要なことは言うまでもない。特に、大問Ⅰは2000語以上の文章が出題される傾向があり、集中力を切らさずに最後まで読みきる力が求められる。ただ、英文は標準的で、内容的にも特に難しいものは出題されない傾向にある。文脈を正確に把握しながら読み進める力を養っておこう。また、「下線部和訳」「内容説明」などの日本語の記述問題は、自分の頭の中では理解しているつもりでも、採点者に正確に伝わる解答を作成することは意外と難しい。日本語の表現力を磨く訓練も怠らないようにしたい。